


第39期

ビジネスレポート

平成22年4月1日～平成23年3月31日

 **ワイエイシ株式会社**

東証1部 証券コード:6298





代表取締役社長
百瀬 武文

この度の東日本大震災に被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く平穏な生活に戻られますことを切にお祈り申し上げます。

株主の皆様におかれましては、平素よりワイエイシイをお引き立て賜りありがとうございます。ここに第39期ビジネスレポートをお届けいたします。

当期の世界経済は、アジア地域、特に中国を中心とした新興国が高度成長を維持し、それに牽引される形で、欧米の経済も緩やかながら回復基調に転じました。わが国経済も緩やかな回復基調にあったものの、3月の大震災により、消費マインドが冷え込み景気後退が避けられない状況となっております。

このような経済環境のなか当社グループは、原価低減、経費節減による収益力の強化を図る一方で、アジア地域を中心とした営業基盤の拡大強化を図ってまいりました。

この結果当期の連結業績は、売上高114億98百万円(前年同期比25.7%増)、営業利益6億99百万円(同341.5%増)、経常利益7億26百万円(同593.0%増)、当期純利益3億95百万円(同3,245.3%増)となりました。

当社グループは、再生可能エネルギーの需要の高まりや、節電のニーズを踏まえ、太陽電池製造装置や、新しい省電力照明であるFEL(フィールド・エミッション・ランプ)の分野に重点的に経営資源を集中してまいります。また、平成23年4月に(株)デンコーを連結子会社とし、取扱製品の拡大を図るなど、経営基盤の拡大にも継続的に取り組んでおります。

これからも当社グループは、研究開発型企業として環境関連事業やハイテク関連事業を中核として、グローバル展開やM&Aの積極的な取り組みにより、経営基盤の強化と拡大に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年6月

株主の皆様へ 2

財務ハイライト 過去3年間の業績推移(連結) 3

事業フィールド 4~6

トピックス 7

営業状況 8

連結財務諸表 9

ネットワーク 10

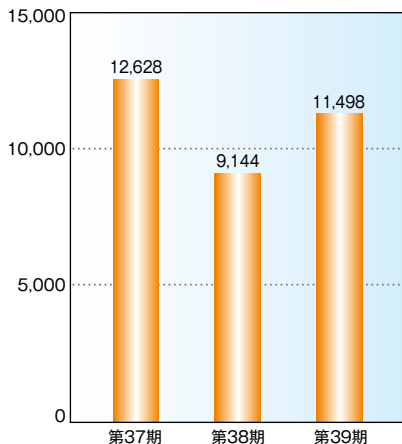
会社概要 11

株主メモ 裏表紙

財務ハイライト 過去3年間の業績推移(連結)

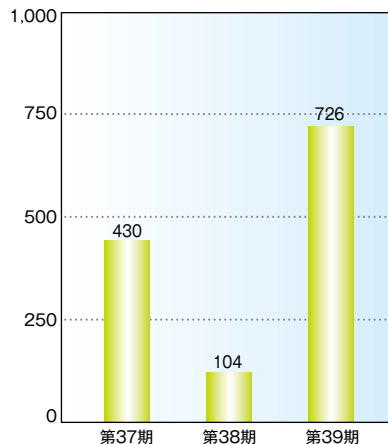
売上高

(単位:百万円)



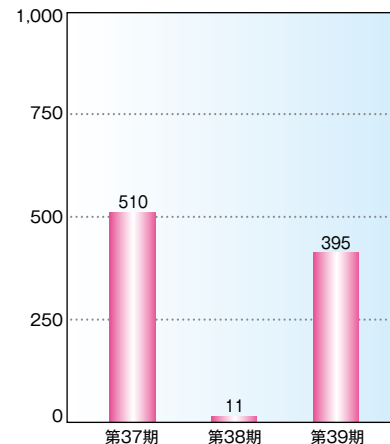
経常利益

(単位:百万円)



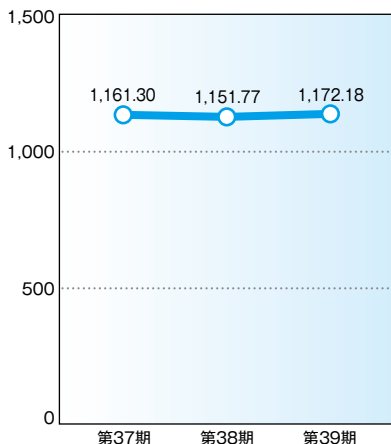
当期純利益

(単位:百万円)



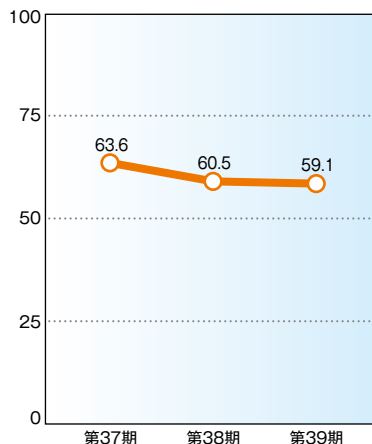
1株当たり純資産額

(単位:円)



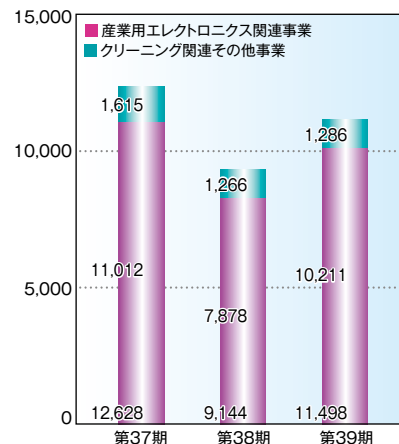
自己資本比率

(単位:%)



セグメント別売上高

(単位:百万円)



太陽電池製造装置

生産性の高い製造プロセスを実現

地球温暖化対策、さらには東日本大震災に伴う原発問題から、太陽電池の需要は急拡大し、これに伴う装置の引合いも増加しております。このような状況下、当社は、ウエットエッジングや洗浄装置を軸に発光効率の高い製造装置を提供することにより、国内はもとより、韓国、台湾、中国等のアジア地域における営業基盤の拡大を図っております。



単結晶テクスチャリング装置
e-wet Stex-2010



多結晶テクスチャリング装置
e-wet Mtex-2010

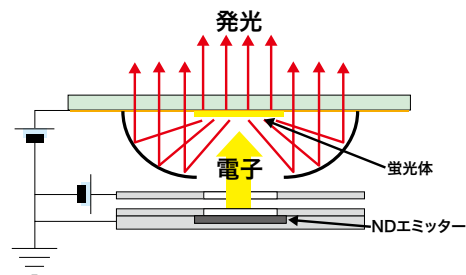
光を取り入れてエネルギーに変換する太陽電池にとって、できるだけ光を漏らさずに取り入れることが最も重要です。当事業部の主力製品は、シリコンウェーハを材料とする“セル”の製造プロセスです。国内メーカーの主力製品であり、エネルギー変換効率の高い単結晶シリコン太陽電池では、非常に高精度の加工が求められます。そこで、シリコンウェーハの表面を薬液等による化学加工によりエッチングする装置の開発に力を注ぎ、1ラインあたり年間60MWという発電効率を実現できる製造装置を開発しました。これにより、太陽電池の利用シーンの拡大が期待されます。

FEL(平面発光ランプ)用薄膜

FELとは? *Field Emission Lamp*



電界放出により発生した電子を蛍光体へ照射し、発光を得るランプ



FEL (Field Emission Lamp: 平面発光ランプ) は、省エネルギー・省資源・脱有害物質(水銀・鉛レス)の特徴を持った地球環境にやさしい次世代照明として期待されているものであります。

当社は、製造装置の製造・販売を主に行ってまいりましたが、この事業により初めて素材産業に参入することになります。

現在、関連会社である株式会社NDマテリアルと共同して平面型電子エミッターの事業化を進めております。さらに、ランプメーカーと提携し、エミッターを組み込んだランプ(FEL)の開発及び試作を推進しております。

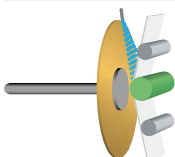
特徴

- ①従来の蛍光灯と異なり、水銀・鉛などの有害物質を使用しない。
- ②LED(発光ダイオード)と比較して、
 - ・発熱量が少ない。
 - ・面発光である。
- ③色選択、合成の自由度が高い。

ハードディスク関連製品 (ハードディスクメディア工程)

テクスチャー工程

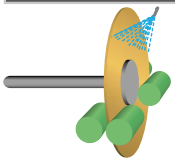
基板の表面を研磨液と研磨テープを用いて研磨します。



当社取扱い製品 テクスチャー装置/テクスチャー用テープ

洗浄工程

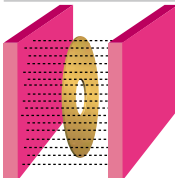
洗浄液で表面を洗浄します。



当社取扱い製品 移載機/クリーンコンベア/クリーニング用テープ

スパッタリング工程

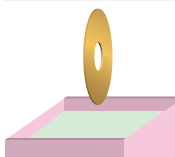
表面に磁性膜・保護膜を生成します。



当社取扱い製品 移載機/クリーンコンベア

ルブ・ベイク工程

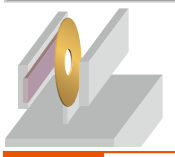
表面に潤滑剤を塗布します。



当社取扱い製品 移載機/クリーンコンベア

UV工程

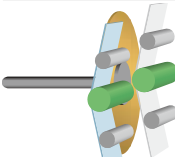
UVを照射し、潤滑剤の密着性を調整します。



当社取扱い製品 UV装置

バーニッシュ/ワイピング工程

研磨テープで表面の突起を除去した後、ワイピングテープで表面をクリーニングします。



当社取扱い製品 バーニッシュ装置/ワイピング装置/ワイピングテープ

クリーンコンベア(HD工場向け)

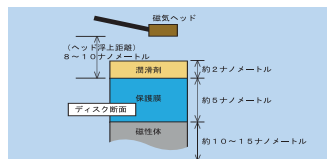


モジュールの組み合わせで自由な搬送ライン設計が可能なローラー式コンベアAGV(自走型搬送ロボット)やOHT(天井架設型搬送装置)に比べ、搬送物をいつでも搬送ラインに投入することができ、搬送効率が高い。

バーニッシャー



ハードディスク製造工程において、ディスクに磁性体を生成後、表面のナノオーダーの微小突起を除去する精密研磨装置。



半導体関連製品 (ICテストハンドラー)

ロジック系IC用ICテストハンドラー

ICのパッケージング後の検査工程で、テスターと接続して使用し、テスターからのテスト結果信号に基づき、ICを良品と不良品に自動選別する装置。必要に応じて、精度の高い高温・低温(-55°C~155°C)下でのテストも行います。

高温ハンドラー H242MB



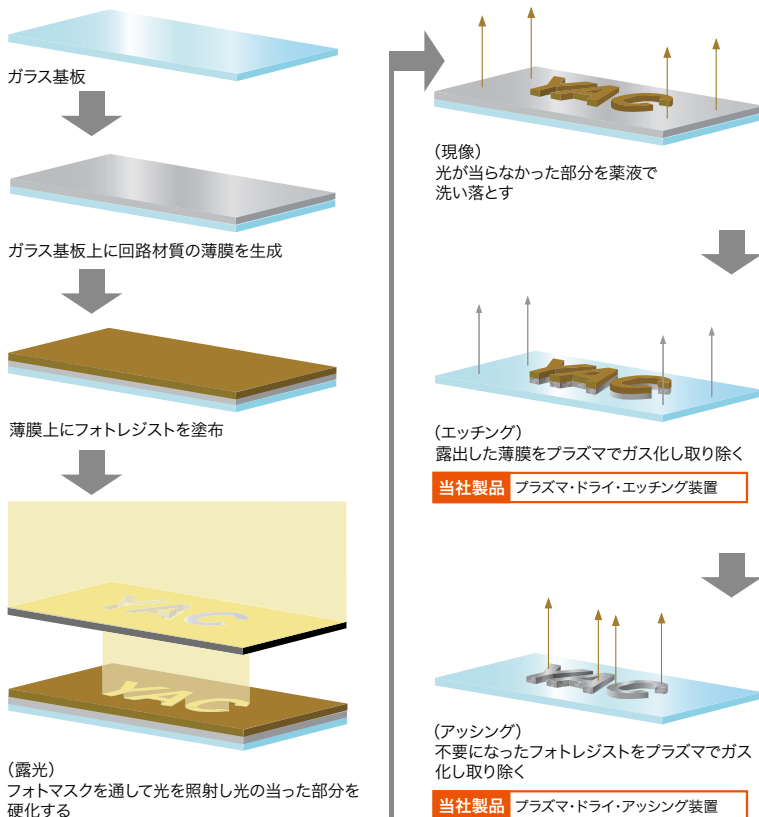
ハンドリングの性能アップ、テスト時のコストダウンを実現させたハンドラーです。4個測定のほか、専用キットを搭載することで8個測定にも対応可能です。

常・高温ハンドラー A/H500シリーズ



3~20mmまでの小型ICに対応可能な4個測定の高速度ハンドラー「H543」や、効率的にハンドリングできる16個測定の「H5163」などを揃えています。

液晶関連製品 (液晶パネル製造アレイ工程)



※上記の工程を何度か繰り返し、回路が完成します。

プラズマ・ドライ・エッチング装置 GAEA Series (For LTPS)



「スマートフォンの活況に伴い、ディスプレイも高精細液晶や有機ELへの進化の兆しがあります。当事業部は技術のポジションを行い、中小型装置での高スループットと新高密度プラズマでのエッチングでシェアアップを計る戦略をとっています。そしてこれから起こりえるコスト競争に備え、サプライチェーンを世界に置き換え、競争に勝てる装置を提供して行きます。」

クリーニング関連製品 (ワイシャツ仕上機)



YPS-301E TYPE2
(ワイシャツ用シングルボディスリーブプレス機)

シャツを前後から熱板で挟みシャツのボディ部と袖部分をプレス仕上する装置
前身のYPS-301Eよりも低コスト、高品質、高生産を目指した装置。



YPS-622E
(ワイシャツ用二段式ストレッチカラーカフスプレス機)

シャツの襟部分とカフス部分をプレスする装置
洗浄時に縮んだシャツの襟部分を元通りに戻すストレッチ機構が付き、省スペースに設置できる装置。

新しくグループ会社となった 株式会社デンコーのご紹介



(株)デンコーは、1961年8月の会社設立以来、他に先駆けて“高効率な熱源”遠赤外線ヒーターを開発してまいりました。

ヒーターの特長である高放射率、ハイパワー、フレキシブル性などを活かし加熱装置及びヒーターユニットとして広い分野に応用し、ヒーターの専門メーカーとして市場に提供してまいりました。

その製品は加熱を必要とするさまざまな分野のお客様に使用されております。

これからも専門メーカーだからこそ出来る加熱技術を提案してまいります。

液晶ディスプレイ製造用加熱装置



装置外観

MB・MSシリーズ

当社が世界で初めて開発した
液晶パネル製造用
遠赤外線(IR)方式
枚葉多段加熱装置です。
世界の液晶パネルプレイヤーに、
ご愛用をいただいております。

特長

- ・遠赤外線(IR)方式で効率的、クリーンな加熱
- ・枚葉方式で基板ごとに精密な加熱処理が可能
- ・縦型多段構造で、省スペース
- ・～350℃まで対応可能

用途

配向膜焼成・配向膜塗布前洗浄乾燥・ラッピング後洗浄乾燥・シール材硬化
各種アニール・レジスト乾燥および焼成・有機膜焼成

自動車関連製品紹介



ホットプレス用加熱炉



鍛造(金型予熱)
(~1000°C)
クランクシャフト、
スプリング、
ホイール

ガラス曲げ加工
(~900°C)
フロントガラス、
リアガラス

塗装乾燥
(~450°C)
ボディ、バンパー、
ホイール、
シーティング

ホットプレス (~1000°C) A・Bピラー、ロッカーパネル、ドアビーム、サイドメンバー、フロントンネル、ルーフレール、マウントプレート、キャリアー、バンパー(トラック、バス)

特長: 最高温度1000°Cのハイパワー遠赤外線ヒータ
高張力鋼板の急速加熱に最適なヒータ
用途: 各種熱間鍛造用加熱炉として使用されています。

太陽電池製造装置



◀ 電極乾燥焼成炉
(結晶系太陽電池)

その他

- ・EVAキュア炉
(薄膜系太陽電池)
- ・ラミネータ
(結晶系・薄膜系太陽電池)

■事業概況

当連結会計年度の経済は、アジア地域を中心とした新興国の高成長に牽引され、欧米の先進国も緩やかな回復基調となりました。

日本経済においても、欧米と同様に回復基調にありましたが、エコポイント制度の駆け込み需要の反動に伴い、個人消費の低迷や円高の進展に伴い輸出が減速し、景気は一時停滞したものの、年末からは個人消費が持ち直し、景気回復の兆しも現れてまいりました。

しかしながら、このたびの東日本大震災により、消費マインドが冷え込み、景気の後退が避けられない状況となっております。

このような経済環境のなか、当社グループにおきましては、厳しい受注環境に対処すべく、韓国に続き中国に現地法人を設立し、アジア地域を中心としたグローバルな営業展開を図り、さらに、収益の確保にむけ原価低減や経費削減運動をこれまで以上に強力に推進してまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は売上高114億98百万円(前期比25.7%増)、営業利益6億99百万円(同341.5%増)となりました。

【セグメント別の状況】

産業用エレクトロニクス関連事業

メモリーディスク関連装置分野及び半導体関連装置分野では、新興国の自動車・家電等に係る半導体需要や3DTV・タブレット端末需要の増加に伴い在庫調整が進み、新たな設備投資が喚起され業績は堅調に推移いたしました。

液晶関連装置分野では、大型液晶パネルが在庫調整局面にありましたが、小型液晶パネルがスマートフォンやタブレット端末等に需要が拡大し、中型液晶装置の売上に繋がり、総じて業績は底堅く推移いたしました。

太陽電池関連装置分野では、顧客の設備投資先送りに伴う売上の期ずれやパネル価格の低下に伴う、装置価格の値引き等の厳しい環境のなか、海外顧客の獲得と一層のコスト低減により、収益の確保に努めました。

これらの結果、産業用エレクトロニクス関連事業の売上高は102億11百万円(同29.6%増)、セグメント利益は10億9百万円(同90.0%増)となりました。

クリーニング関連その他事業

国内クリーニング需要の減少やクリーニング工場の建築基準法の適用問題等で厳しい環境にありましたが、新たに省エネ・クリーン環

境製品を開発し、中国、韓国及び米国へとグローバルな営業展開を図り、収益を確保いたしました。

これらの結果、クリーニング関連その他事業の売上高は12億86百万円(同1.6%増)、セグメント利益は1億52百万円(同25.6%増)となりました。

■対処すべき課題

当社の主力分野である産業用エレクトロニクス関連事業におきましては、スマートフォン・タブレット端末・3DTV等が世界的に活況を呈し、さらに、環境・省エネ関連分野の製品需要は、補助金制度や自然エネルギー志向に支えられ新たな展開を見せております。

こうした状況において当社グループ(当社及び関係会社)は、環境にやさしい機械・装置を事業のテーマとして、クリーンエネルギー分野において付加価値の高い製品の開発や省エネ化に積極的に取組み、社会のニーズに応じた製品群の拡大を図ってまいります。

具体的には以下の課題に対処してまいります。

①研究開発の拡充

多様化する顧客ニーズに応えるため事業部間の連携を強化し、製造装置分野での製品群の拡大のため、研究開発の研鑽を継続し、FEL(フィールド・エミッション・ランプ)の実用化や太陽電池製造装置等の低環境負荷製品の開発に積極的に取組んでまいります。

②グローバル展開

平成22年10月に中国現地法人・瓦愛新(上海)国際貿易有限公司の営業を開始し、既存のシンガポール、台湾及び韓国の拠点とあわせ、今後一層の経済成長が見込まれるアジア地域の営業基盤の拡大に努めてまいります。

③生産体制の再構築

政情不安による資源の高騰や政治的な思惑により、原材料の調達が安定しないなか、今回の東日本大震災の影響や経営環境の変化、そして多様化する顧客ニーズに対応するために、国内外の協力会社と連携を強化し、フレキシブルな生産体制の構築を図ってまいります。

④財務体質の強化

当社は、財務体質改善のため、キャッシュ・フローの増加と自己資本の充実に努め、より収益性の高い安定した事業経営と規模の拡大に努めてまいります。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成23年3月31日現在	平成22年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	14,761	14,076
現金及び預金	6,538	5,232
受取手形及び売掛金	5,775	6,770
たな卸資産	2,185	1,682
その他	262	390
有形固定資産	2,916	3,030
無形固定資産	96	100
投資その他の資産	668	484
資産合計	18,442	17,692
【負債の部】		
流動負債	5,206	4,891
支払手形及び買掛金	3,658	3,004
その他	1,548	1,886
固定負債	2,337	2,091
負債合計	7,544	6,983
【純資産の部】		
株主資本	11,089	10,833
その他の包括利益累計額	△191	△124
純資産合計	10,898	10,708
負債純資産合計	18,442	17,692

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成22年4月1日～ 平成23年3月31日	平成21年4月1日～ 平成22年3月31日
売上高	11,498	9,144
売上原価	9,107	7,170
販売費及び一般管理費	1,691	1,816
営業利益	699	158
営業外収益	115	75
営業外費用	87	128
経常利益	726	104
特別利益	0	5
特別損失	116	8
税金等調整前当期純利益	611	101
少数株主損益調整前当期純利益	395	—
当期純利益	395	11

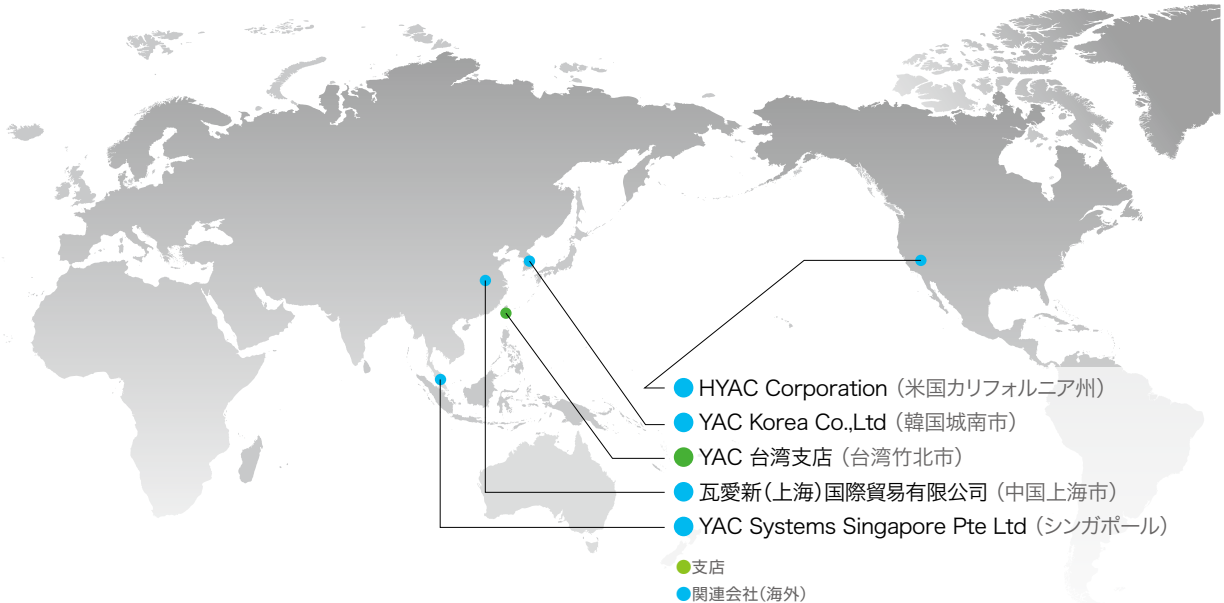
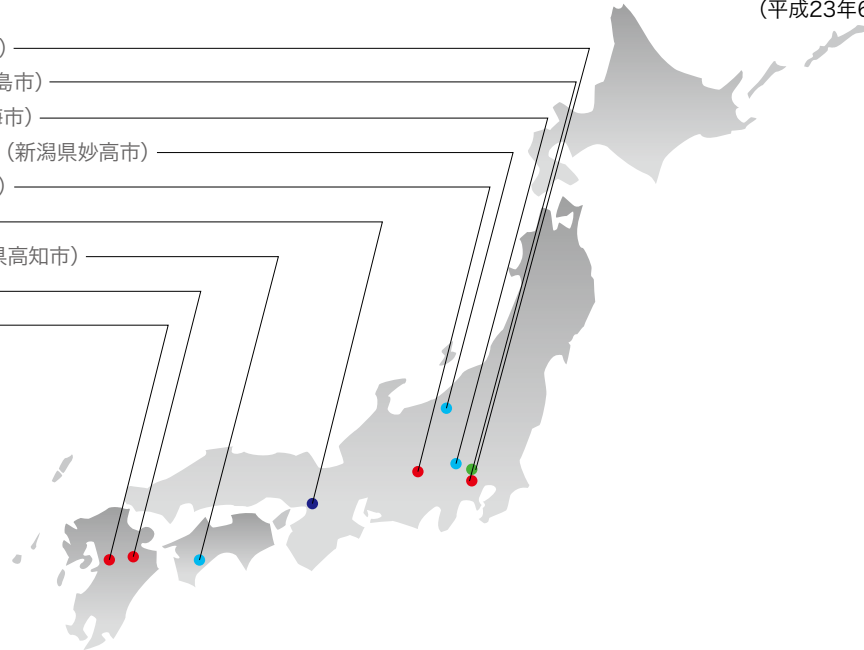
連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成22年4月1日～ 平成23年3月31日	平成21年4月1日～ 平成22年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,854	330
投資活動によるキャッシュ・フロー	△222	△454
財務活動によるキャッシュ・フロー	△295	11
現金及び現金同等物に係る換算差額	△32	△15
現金及び現金同等物の増減額	1,304	△128
現金及び現金同等物の期首残高	5,216	5,344
現金及び現金同等物の期末残高	6,520	5,216

(平成23年6月29日現在)

- 本社・本社工場（東京都昭島市）
 - テクニカルセンター（東京都昭島市）
 - 株式会社デンコー（東京都青梅市）
 - ワイエイシー新潟精機株式会社（新潟県妙高市）
 - 山梨工場（山梨県南アルプス市）
 - 大阪営業所（大阪府大阪市）
 - 株式会社NDマテリアル（高知県高知市）
 - 大分工場（大分県大分市）
 - 熊本製作所（熊本県大津町）
- 本社
 - R&D・生産拠点
 - 販売・メンテナンス拠点
 - 関連会社(国内)



会社概要 (平成23年6月29日現在)

商号	ワイエイシ株式会社
英文表示	Y.A.C.CO.,LTD.
本社	東京都昭島市武蔵野三丁目11番10号
設立	昭和48年5月11日
資本金	2,756百万円
従業員数	194名(出向社員・契約社員等の臨時雇用者含まず)
事業内容	次あげる自動機械の設計・製造・販売ならびに装置開発を行っております。

●産業用エレクトロニクス関連事業

液晶向プラズマドライエッチング装置/ロジックハンドラー/
熱処理炉/ハードディスク用各種精密研磨装置/
ハイクリーンコンベアシステム/平面発光ランプエミッター/
太陽電池製造装置

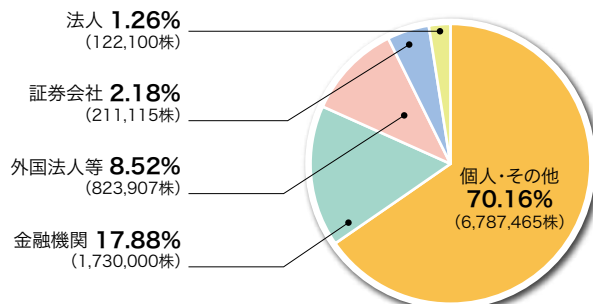
●クリーニング関連その他事業

包装機/立体包装機/シャツ・ウール用プレス機/
全自動立体分配システム

株式の状況 (平成23年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数	34,388,000株	
発行済株式の総数	9,674,587株	
当期末現在の株主数	4,945名	
個人・その他 ^(注1)	4,789名	6,787,465株
法人	48名	122,100株
金融機関	29名	1,730,000株
証券会社	31名	211,115株
外国法人等	48名	823,907株

所有株式数分布状況 (平成23年3月31日現在)



(合計 9,674,587株)

役員・執行役員 (平成23年6月29日現在)

代表取締役社長	百瀬 武文
常務取締役	佐藤 康男
常務取締役執行役員	伊藤 利彦
常務取締役	宮本 忠泰
取締役執行役員	和田 貢
取締役執行役員	大福 芳弘
取締役執行役員	副島 幸雄
常勤監査役	東田 明
監査役	勝間田 武司
監査役	石田 祥二
執行役員	西原 宗久
執行役員	曾根田 栄悦
執行役員	寺本 和政

大株主 (上位10名) (平成23年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率 ^(注2) (%)
百瀬 武文	1,499	16.13
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	611	6.58
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	313	3.36
ビービーエイチフォーフィデリティロープライズストックファンド	300	3.22
カセイスバンクルクセンブルグクライアントアカウント	117	1.26
ビーエスピーパリアセキュリティーズサービスルクセンブルグジェネラルセキュリティーズ	105	1.12
日本証券金融株式会社	92	0.99
大和証券キャピタル・マーケット株式会社	78	0.84
東京海上日動火災保険株式会社	61	0.66
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口6)	61	0.65

※当社は、自己株式を376,890株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
(注1)従業員・自社名義株式を含みます。(注2)持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主確定基準日	3月31日、その他必要ある場合にあらかじめ広告する一定の日
公告の方法	当社ホームページに掲載 (http://www.yac.co.jp) (やむを得ない事由が発生した場合は日本経済新聞に掲載)
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(お問合せ先)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル)
1単元の株式の数	100株

●住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座がある証券会社にお申出ください。

なお証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。

●未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三菱信託銀行株式会社にお申し出ください。



〒196-0021 東京都昭島市武蔵野3-11-10
TEL (042) 546-1161 (代表) FAX (042) 546-1107
URL <http://www.yac.co.jp>